

講座名	緑を楽しむ講座・習志野 「爽やかな風かおる青葉の森を散策」		
開催日時	2022年4月30日（土）10時00分～14時00分		
開催場所	千葉県立青葉の森公園・生態園	一般参加者	18名

活動概要

「緑を楽しむ講座・習志野」では、今年度の第1回目の講座として「爽やかな風かおる青葉の森を散策～生態園で学ぶ、房総半島の森はどうやってできた？～」を開催しました。テーマは、千葉県の植生がコンパクトに再現されている「青葉の森・生態園」を舞台に、房総半島の成り立ちや、その植生の特長、主な植物など、房総半島の森を知るための入門講座です。

荒天により開催日を翌30日に延期した結果、天気は、低気圧一過の快晴に恵まれました。中央博物館前に10時に集合。初めに、地質史的な房総半島の成り立ちを簡単に説明。約300万年前に丹沢・三浦半島から植物が渡ってきたこと、嶺岡山地に残る垂直分布の背景、黒潮と寒流がぶつかることで生まれる植生の豊かさなどを予備知識として解説しました。

続いての生態園では、南総エリアに多く見られる「海岸植生」、「沿岸部の照葉樹林」、「山地性の照葉樹林」、「モミ・ツガ林」の代表的な植物と群生の特長を順番に紹介。

一旦休憩を挟んで、次は、北総エリアに多く見られる「落葉広葉樹林」「常緑広葉樹林」、「ススキ草地」、「竹林」、「湿地林」の代表的な植物と群生の特長を紹介しました。

生態園の中では、「ハマヒルガオ」「カマツカ」「サワフタギ」「ヤブデマリ」「ハンショウツル」「ギンラン」「キンラン」の花が咲き、「タブノキ」「スダジイ」「シロダモ」「カシ類」の新芽も、散策の目を楽しませてくれました。

生態園で一通り房総半島の植生を学んだあとは、青葉の森の珍しい植物を紹介しました。「ナツツバキとヒメシャラの違い」、「楊貴妃の愛したギョリュウの花」、「生きた化石といわれるハンカチのキ」などを紹介して、さくら山での昼食。

昼食後は、満開で真っ白な花で覆われている「ヒトツバタゴ（なんじゃもんじゃのき）」や、普段は樹上に咲く「トチノキ」の花を目の前で観察。続いて、世界三大庭園樹と呼ばれる「コウヤマキ」と「ヒラヤマシダ」などを紹介しました。

散策の最後に参加者の方へ、お土産として「ヒマラヤシダ」のバラの花のような松ぼっくりを差し上げて講座は終了。好天にも恵まれ、爽やかな風かおる、楽しい1日になりました。



「生態園のご案内」



「ハンカチノキ」



「ヒトツバタゴ (なんじゃもんじゃのき)」

F I C 講師

吉埜、森池、金井